



日本生命財団・学際的総合研究助成
第6回「都市環境イノベーション研究会」



脱炭素社会に向けた飯田市の取組み①

～地域ぐるみ環境ISO研究会20周年記念イベント講演報告を兼ねて～

早稲田大学理工学術院
(株式会社NTTデータ経営研究所)
渡邊敏康

2017年2月18日

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年記念イベントにおける講演 2016年12月13日

2

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年記念イベントにおける講演

- 2016年12月13日(火)、長野県飯田市の飯田人形劇場において、地元企業や市役所などを会員とする地域ぐるみ環境ISO研究会設立20周年記念イベントが、参加者約80人で開催された。
- 本研究プロジェクトから4名が参加し、当日は、「外部からの研究会の検証レポート報告」の位置づけで、研究代表者・松岡が記念報告を行った。
- 報告タイトル:
『南信州・飯田市の持続可能な地域産業社会の形成から学ぶ:
地域ぐるみ環境ISO研究会の20年とこれから』

	参加者氏名	所属
1	松岡 俊二	早稲田大学・日本生命財団プロジェクト・研究代表 国際学術院・アジア太平洋研究科・教授
2	渡邊 敏康	早稲田大学 理工学術院(創造理工学研究科)・博士後期課程
3	竹川 章博	上智大学 地球環境学研究科・研究補助員
4	岩田 優子	早稲田大学 アジア太平洋研究科・博士後期課程(研究会事務局)

3

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年記念イベント(当日の流れ)

15:00～15:05	開会宣言	田中詔秋・副代表 (三菱電機(株)飯田工場長)
15:05～15:15	研究会20年の振り返り(VTR)	
15:15～15:45	外部からの研究会の検証レポート報告	早稲田大学大学院・松岡俊二教授
15:45～15:50	記念誌の紹介	(一財)地球・人間環境フォーラム 平野喬専務
15:50～16:00	休憩	
16:00～16:10	エコバック贈呈式	萩本範文代表 →飯田OIDE長姫高校 南信州レジ袋削減推進協議会 今村良子会長
16:10～16:20	南信州いいむす21更新登録証交付式	牧野光朗連合長 →飯田OIDE長姫高校
16:20～16:30	リレートーク①	飯田OIDE長姫高校
16:30～16:40	リレートーク②	牧野光朗市長
16:40～17:10	リレートーク③	萩本範文代表
17:10～17:15	萩本範文代表から関重夫新代表へのバトンタッチ	
17:15～17:20	萩本範文代表へ花束贈呈	花束贈呈係:森岡氏
17:20～17:25	関重夫新代表からの決意表明	
17:25～17:30	閉会宣言	大長眞・副代表 (オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)取締役副社長(兼)飯田事業所長) ※同社・木下喜絵氏代読
17:30～17:35	集合写真撮影(各代表)	
17:35～17:40	集合写真撮影(参加者全員)	
18:15～	地域ぐるみ環境ISO研究会20周年記念慰労会@ MATENROU(摩天楼)	

4

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年記念イベント(当日の様子)



研究代表者・松岡の報告



萩本代表から関新代表へのバトンタッチ



記念イベント会場(飯田人形劇場)にて記念撮影(2016年12月13日)

5

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年記念イベント 飯田市「環境モデル都市」認定・飯田市役所 ISO 14001自己適合宣言移行記念における講演 2017年2月8日

7

当日の報告は、今後の飯田市、 環境ISO研究会のあり方についての論点を提示

論点

1. パリ協定により世界は、低炭素から脱炭素へと動きつつある中、飯田市は今後、低炭素社会形成をどのようにとらえていくのか？
2. 持続可能な社会形成に向けた日本モデルの自然共生社会および循環型社会形成の取り組みとどのように連動していくのか？
3. 産業活動に加えて、市民社会の取り組みをどのように連携するのか？
公民館活動やおひさまファンドの取り組み
⇒低炭素モデル都市の2本柱の間の連携は必ずしも連動していないのではないか
4. 持続可能な社会を見据えたときに、「環境」・「社会」・「経済」のうち、自立した経済をどのように形成していくのか？
－ 低炭素化と産業成長の両立、「環境文化都市」と「文化経済自立都市」
－ 雇用創出・若者の定着



飯田市における脱炭素化に向けた取り組みについて
市長へ提言

6

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会設立20周年記念イベント 飯田市「環境モデル都市」認定・飯田市役所ISO 14001 自己適合宣言移行記念における講演

- ・ 2016年12月13日(火)の地域ぐるみ環境ISO研究会設立20周年記念イベントの第二弾が、2017年2月8日(水)に長野県飯田市役所で開催された(牧野飯田市長、関重夫・地域ぐるみ環境ISO研究会代表、市役所職員・環境ISO研究会所属の実務者等、約90人が参加)。
- ・ 本研究プロジェクトから4名が参加し、研究分担者・黒川と研究協力者・渡邊が基調講演を行った。
- ・ 講演会に先立ち、多摩川精機株式会社において、研究実務者会および事業所見学会も実施された。

	参加者氏名	所属
1	黒川 哲志	早稲田大学 社会科学総合学院(社会科学部)・教授
2	渡邊 敏康	NTTデータ経営株式会社・シニアマネージャー 早稲田大学・理工学術院(創造理工学研究科)・博士後期課程
3	升本 潔	青山学院大学 地球社会共生学部・教授
4	岩田 優子	早稲田大学 アジア太平洋研究科・博士後期課程(研究会事務局)

8

当日の流れ

14:20	多摩川精機株式会社着・屋上見学
15:00	「地域ぐるみ環境ISO研究会」実務者会
16:00	「地域ぐるみ環境ISO研究会」事業所見学会
17:20	市役所着・庁舎見学
17:45	登壇者等顔合わせ・打合せ(@市長公室)
18:00	記念イベント開会
18:05	基調講演(渡邊・黒川)
19:00	パネルディスカッション(コーディネーター:黒川)(※升本退席)
19:30	記念イベント閉会

9

「地域ぐるみ環境ISO研究会」実務者会 当日の様様



実務者会の冒頭で挨拶する関重夫・代表



日生PJについて説明する黒川教授



ジャイロの説明を聞く調査団メンバー



実務者と一緒に歴史館内で説明を聞く

10

飯田市地域ぐるみ環境ISO研究会設立20周年記念イベント 飯田市「環境モデル都市」認定・飯田市役所ISO 14001 自己適合宣言移行記念における講演(当日の様子)

飯田市市民協働環境部・竹前雅夫部長より趣旨説明・講師紹介ののち、渡邊、黒川の順番で25分ずつ基調講演をおこなった。



講演前



基調講演①



基調講演②



パネルディスカッション

11

パネルディスカッション 「新たな挑戦、それぞれの役割」の概要①

(牧野市長)

- 『1人による100歩ではなく100人による1歩』。スピードは遅いかもしれないが、みんなで少しずつ背伸びをして成し遂げていくのが飯田市のイノベーションである。
- さまざまな新しいことがいろんな分野一環境分野だけでなく、産官学連携や大学ネットワークなどで興ってきているのが、飯田市の特徴であり、強みであり、使命である。
- 今回のイベントは、環境ISO研究会設立20周年記念イベントだが、市にとっては、2003年の飯田市役所のISO14001自己適合宣言移行記念や、2009年の「環境モデル都市」認定記念としての位置づけが大きい。
- 低炭素から脱炭素に向けた動きは、行政が単独でやることなく、地域の中でどのようにまとまった動きをつくっていけるかが重要な課題である。
- 飯田市は、電気自動車の普及のための施策など、トップランナーとしてこの動きを先導しなければという自覚をもって取り組んでいく

12

パネルディスカッション 「新たな挑戦、それぞれの役割」の概要②

(関代表)

- ・ 萩本前代表のあとを引き継いだときはプレッシャーも大きかったが、いまは、一人で頑張らなくてもいい、みんなで一緒に取り組んでいけばいい、という牧野市長からのお言葉をあたたかい激励と受け取り、これから脱炭素に向けてどうすればいいのかを皆さんと一緒に考えながらひとつひとつ取り組んでいきたい。
- ・ 個人的には、飯田市を、外から来てくれる人に優しい街にしたいと考えている。
- ・ その具体的なプロセスのひとつとして脱炭素を考えられればよい

